



輝け！北っ子

平成29年11月1日発行

11月号

発行責任者 紺野 宗作

子どもたちの活躍が光る「北っ子まつり」



2年生が廊下で北っ子まつりのことを友達同士で話しているところに私が通りかかりました。

私も思わず「お家の人、北っ子まつりのことで何か言っていた？」と聞いてみました。

「うん、大きな声で上手にセリフが言えたから、ママにすごくほめられた。」

「僕のお母さんは、2年生の発表が1番だと言っていた！」

「私のお父さんは、北小の発表はどの学年もすごかったと言っていた！」

得意になって笑顔で私に口々に話をする子どもたちの姿から、北っ子まつりの発表での達成感や自信が感じられました。北っ子まつりの成功は、子ども達の次なる学習活動への意欲につながっていきます。

北っ子まつりでは、2つのことを目標に指導してきました。1つは、個々の意欲を大切にしながら、自分の役割に責任をもって取り組ませていくこと。2つは、自分自身と学級や学年とのかかわりに対する認識を深め、協力して作り上げていく喜びを実感すること。いずれの学年の発表からも、この2つの目標が達成されたのではないかと感じました。特に小学校最後の北っ子まつりとなった6年生の劇「二本松少年隊」は、極めて教育的価値が高い素晴らしい発表だったと感じました。子どもたちは、この北っ子まつりに向けての学習を通して、二本松の歴史や伝統を学ぶことだけではなく、自分たちと同じ年頃だった少年隊に思いを馳せ、「家族」とは・・・、「命」とは・・・、そして「生きる」とは・・・など、様々なことを子ども一人一人が主体的に考えることができました。子ども達には、自分自身の人生を力強く切り拓いてほしいと思いました。

家読(うちどく)で家族団らんを大切に…11月は読書月間

ある調査によると、男子小学生のなりたい職業は、1位がサッカー選手、2位が医者、3位がユーチューバーだそうです。今の子どもたちはスマホやゲーム等でネットサーフィンを楽しんでいることが反映されているようです。

人工知能(AI)の研究が進み、ますます人とのつながりが希薄となり、私たちの予想もつかない世界に進もうとしています。私の子どもの頃は雑貨屋でお菓子を買うにも「おばちゃん、これなんぼ(いくら)?」と言って、少なからずともコミュニケーションが介在しました。しかし、今はスーパーやコンビニに行っても、特に人と関わらずとも、お菓子等も購入でき便利に生活ができるようになりました。世の中が発展して便利にはなったとは思いますが、豊かな時代になったとは感じません。メール等の文字情報でのコミュニケーションが当たり前となった今の子どもたちにとって、日常での様々な人とのコミュニケーションが煩わしく自己表現が稚拙になった子どもが多いと感じます。一緒に遊んでいるようでも、全員が別々のゲームを楽しんでいたりする光景は今や当たり前となっているようです。このような時代だからこそ、学校では、友達と学び合い、絆を感じながら課題を解決する授業を目指していきたいと思えます。

11月は、学校の読書月間です。学校から「家族読書・おススメ100選」のパンフレットも届いているかと思えます。1冊の絵本を家族が役割読みをするなど、家読(家族でふれあう読書)がおススメです。きっと、ぬくもりのある家族コミュニケーションの時間となることでしょう。ぬくもりのある団らんは子どもの心を安定させ、学校生活でも何事にも前向きで意欲的に活動できるようになります。だから、バーチャルではなくリアルな時間こそが、どんなに人類が進化しようとも、人間が心豊かに生きていくためには必要ではないでしょうか。

